

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標 世界の結合や現況の世界情勢および自然環境、地球的課題を生徒が自ら学び、地理的な観察力や思考方法を生徒が把持することを目標とする。歴史科目や公民科目学習につながる基礎的な世界への認識力を生徒が身に付け、かつ共通テストに対応する手がかりとなる基礎的な知識や判断力の定着を図る。	教科書	地理総合・詳解現代地図最新版
講座名	地理総合	科目名	地理総合		副教材	新詳地理資料COMPLETE2023
単位数	2単位	区 分	必修			
年 次	1年次	形 態	クラス単位			
担当者名	1組・2組・4組・5組・7組 植嶋			3組・6組・8組 小川		

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
	地形の地理的特徴	気候の地理的特徴 法・世界地図の特徴	世界の農業の地理的特徴 世界の工業の地理的特徴	世界の交通の地理的特徴 世界の貿易の地理的特徴	世界の宗教分布の地理的特徴 世界の言語分布の地理的特徴 民・遣民の現況とその課題 近隣諸国の地誌
定期考査 までの 授業時数	6時間	14時間	14時間	14時間	14時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能	資料から情報を適切かつ効果的に読み取っている。現代の世界や日本の地理的特徴を理解している。	定期考査 ノート・プリント 小テスト 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	現代の世界や日本に関わる自然環境や社会環境の変容について、多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査 ノート・プリント 小テスト 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	主体的に学習に取り組む態度	見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究するとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	ノート・プリント 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。

日常の学習方法	講義形式の授業を中心とする。可能ならば問題演習や課題配信を実施して、生徒の学習を支援する。
---------	---

大学受験や発展的な内容との関連	共通テストの地理Bの平均点+15点以上の得点獲得を目指すために知識理解はもとより地理的な思考力・判断力を重視した指導を実施する。
-----------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標 世界史と日本史を融合した近現代史を理解する。 問いを立てて考察し、表現する学習を通して、理解を深める。 現代的な諸課題を解決するための歴史的思考力を養う。	教科書	『明解歴史総合』（帝国書院）
講座名	歴史総合	科目名	歴史総合		副教材	『新詳歴史総合』（浜島書店）
単位数	2単位	区 分	必履修			
年 次	1年次	形 態	クラス単位			
担当者名	松岡（1～4組）、中野（5組）、佐伯（6～8組）					

授業内容	第1学期	第2学期	第3学期	第4学期	第5学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
歴史の扉 近代化への問い 結び付く世界と日本の開国	国民国家と明治維新 近代化と現代的な諸課題	国際秩序の変化や大衆化への問い 第一次世界大戦と大衆社会	経済危機と第二次世界大戦 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題 グローバル化への問い	冷戦と世界経済 世界秩序の変容と日本 現代的な諸課題の形成と展望	
定期考査 までの 授業時数	10時間	11時間	13時間	11時間	13時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能	資料から情報を適切かつ効果的に読み取り、まとめている。現代的な諸課題の形成に関わる近現代の世界・日本の歴史を理解している。	定期考査 ノート・プリント 小テスト 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	近現代の世界・日本に関わる生活や社会の変容について、多面的・多角的に考察し、問いやその答えを表現している。	定期考査 ノート・プリント 小テスト 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	主体的に学習に取り組む態度	見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究するとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	ノート・プリント 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。

日常の学習方法	家庭学習での予習で基礎知識をもつことを前提とし、授業では考察・表現を中心に行う。
---------	--

大学受験や発展的な内容との関連	2年次に「世界史探究」「日本史探究」を選択すると、「歴史総合」も大学入学共通テストの受験科目になることを説明し、受験科目になる可能性があることを意識させて学習する。
-----------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標 世界の結合や現況の世界情勢および自然環境、地球的課題を生徒が自ら学び、地理的な観察力や思考方法を生徒が把持することを目標とする。歴史科目や公民科目学習につながる基礎的な世界への認識力を生徒が身に付け、かつ共通テストに対応する手がかりとなる基礎的な知識や判断力の定着を図る。	教科書	地理探求・詳解現代地図最新版
講座名	地理探求	科目名	地理探求		副教材	最新地理図表GEO五訂版
単位数	3単位	区 分	選択学校必修			
年 次	2年次	形 態	クラス単位			
担当者名	1組・2組・3組・4組 藤本 7組 小川					

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
自然地理 小地形 統地理 業	系農	系統地理 工業 商業 通・通信 易 境問題	交 質 環 国家・国民 世界各地の地誌 アジア 東ア 東南アジ 南アジア 西アジア	ヨ一 アングロアメリカ ラテンアメリカ ロッパ	オセ 国際 アフリカ アニア 理解
定期考査 までの 授業時数	13時間	14時間	14時間	17時間	21時間

評価	観点		方法	基準		
	知識・技能	思考・判断・表現		A	B	C
評価	知識・技能	資料から情報を適切かつ効果的に読み取っている。自然環境・系統地理の学術的特徴を理解している。	定期考査 ノート・プリント 小テスト 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	思考・判断・表現	現代の世界や日本に関わる自然環境や社会環境の変容について、多面的・多角的に考察し、表現している。	定期考査 ノート・プリント 小テスト 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	主体的に学習に取り組む態度	見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究するとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。	ノート・プリント 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。

日常の学習方法	講義形式の授業を中心とする。可能ならば問題演習や課題配信を実施して、生徒の学習を支援する。
---------	---

大学受験や発展的な内容との関連	共通テストの地理B（地理探求）の平均点+10点以上の得点獲得を目指すために知識理解はもとより地理的な思考力・判断力を重視した指導を実施する。
-----------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。	教科書	『世界史探究 詳説世界史』（山川出版社）
講座名	世界史探究	科目名	世界史探究			副教材	『NEW STAGE 世界史詳覧』（浜島書店） 『世界史用語集』（山川出版社） 『ウィニングコンパス世界史の整理と演習』（とうほう）
単位数	3単位	区 分	選択学校必修				
年 次	2年次	形 態	選択				
担当者名	松岡						

授業内容	第1学期	第2学期		第3学期	
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
先史時代2 文明の誕生 古代オリエント文明とその周辺 南アジアの古代文明 中国の古代文明 南北アメリカ文明 中央ユーラシア ——草原とオアシスの世界 秦・漢帝国	中国の動乱と変容 東アジアの文化圏の形成 仏教の成立と南アジアの統一国家 インド古典文明と ヒンドゥー教の定着 東南アジア世界の形成と展開 イラン諸国家の興亡とイラン文明 ギリシア人の都市国家 ローマと地中海世界 キリスト教の成立と発展	アラブの大征服と イスラーム政権の成立 ヨーロッパ世界の形成 イスラーム教の諸地域への伝播 西アジアの動向 西ヨーロッパの封建社会と その展開 東ヨーロッパ世界の展開	西ヨーロッパ世界の変容 西ヨーロッパの中世文化 アジア諸地域の自立化と宋 モンゴルの大帝国 アジア交易世界の興隆 ヨーロッパの海洋進出と アメリカ大陸の変容	オスマン帝国とサファヴィー朝 ムガル帝国の興隆 清代の中国と隣接地域 ルネサンス 宗教改革 主権国家体制の成立 オランダ・イギリス・フランスノ台頭 北歐・東欧の動向 科学革命と啓蒙思想	
定期考査 までの 授業時数	13時間	14時間	16時間	13時間	19時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能	諸地域の歴史的特質について、その形成にかかわる諸現象を地理的条件などとも関連づけながら理解する。また諸地域世界の変容について、相互の交流という視点をふまえた諸現象の展開を理解する。諸資料から諸地域の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査 ノート・プリント 課題提出 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	諸地域の形成とその交流・変容に関わる現象の意味や意義、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考査、模範したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	定期考査 ノート・プリント 課題提出 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	世界の歴史の大きな枠組みと展開に関わる諸現象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して蓄えられる日本国民としての見識、我が国の歴史に対する関心、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	ノート・プリント 課題提出 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。

日常の学習方法	家庭学習での予習で基礎知識をもつことを前提とし、授業では考察・表現を中心に行う。
---------	--

大学受験や発展的な内容との関連	3年次で「世界史発展探究」4単位と「世界史演習」2単位を履修することを前提とし、合わせて通史的な内容と受験対策をおこなうこととする。
-----------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	社会的現象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。	教科書	『詳説日本史』（山川出版社）
講座名	日本史探究	科目名	日本史探究			副教材	『新詳日本史』（浜島書店） 『詳録新日本史料集成』（第一学習社） 『ウィニングコンパス日本史の整理と演習』（とうほう）
単位数	3単位	区 分	選択学校必修				
年 次	2年次	形 態	選択				
担当者名	佐伯						

授業内容	第1学期	第2学期		第3学期	
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
旧石器文化から縄文時代への変化 弥生文化の成立 原始・古代の特色を示す適切な歴史資料 国家の形成と古墳文化	律令体制の成立過程と諸文化の形成 貴族政治の展開 平安期の文化	地方支配の変化や武士の出現 貴族政治の変容と武士の政治進出 土地支配の変容 中世の特色を示す適切な歴史資料 武家政権の成立と展開	産業の発達 宗教や文化の展開 武家政権の変容 日明貿易の展開と琉球王国の成立 村落や年の自立 多様な文化の形成や融合	織豊政権の政治・経済政策 貿易や対外関係 近世の特色を示す適切な歴史資料 法や制度による支配秩序の形成と身分制 貿易の統制と対外関係 技術の向上と開発の進展	
定期考査 までの 授業時数	12時間	13時間	16時間	13時間	18時間

評価	観点	方法	基準		
			A	B	C
知識・技能	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に捉えて理解するとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。	定期考査 ノート・プリント 小テスト 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時間や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想し対するかなや、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。	定期考査 ノート・プリント 小テスト 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。
	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して商業される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	ノート・プリント 観察	左記の観点について、非常に高度な状況に到達している。	左記の観点について、概ね満足できる状況に到達している。	左記の観点について、努力を要する状況である。

日常の 学習方法	家庭学習での予習で基礎知識をもつことを前提とし、授業では考察・表現を中心に行う。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との 関連	3年次で「日本史発展探究」4単位と「日本史演習」2単位を履修することを前提とし、合わせて通史的な内容と受験対策をおこなうこととする。
-------------------------	--

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	地理的見方考え方を定着させ、それに関する入試問題の解法を身に付けさせる。 獲得した知識を活用して思考し、共通テストの問題を解くことができる学力を養う。	教科書	『新詳地理B』帝国書院 『新高等地図』東京書籍
講座名	地理B	科目名	地理B			副教材	『最新地理図表GEO』第一学習社
単位数	4単位	区分	自由選択				
年次	3年次	形態	小人数				
担当者名	1組～8組 藤本						

学校行事	第1学期	<第1定期考査>		<第2定期考査>		第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>		<第4定期考査>		第3学期	<第5定期考査>	
授業内容	自然地理	自然地理		夏季休業期間	系統地理 農 業	環 境		冬季休業期間						
	地形	気候 地図		入試問題演習	工 業 交通・通信	文 化 地 誌 共通テスト関連問題		問題演習講習						
定期考査までの授業数	18時間		20時間			20時間		22時間				6時間		

実力テスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	知識・理解、思考力・判断力・表現力を定期テスト等を通じて評価する。
---------------	-----------------------------------

日常の 学習方法	講義形式の授業を中心とする。可能であれば問題演習やオンライン授業を行う。
-------------	--------------------------------------

大学受験や 発展的な内容との関連	共通テストに特化した授業を行う。
---------------------	------------------

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	地理の見方考え方を定着させ、それに関する入試問題の解法を身に付けさせる。 獲得した知識を活用して思考し、共通テストの問題を解くことができる学力を養う。	教科書	新詳地理B帝国書院・新高等地図東京書籍
講座名	地理B演習	科目名	地理B演習			副教材	最新地理図表GEO
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	小人数				
担当者名	1組～8組 藤本						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>	
授業内容	欧州地誌 イギリス・フランス・イタリア ドイツ・ベベルクス	欧州地誌 ロシア オーストラリア アフリカ地形・気候・地域誌 アフリカ地域誌	夏季休業期間 自然地理・人文地理問題演習	アジア地誌中国地誌 朝鮮半島地誌 東燃アジア地誌 インド地誌	北アメリカ地誌 南アメリカ地誌	冬季休業期間 問題演習講習 実施しない
	定期考査までの授業数	第1定期考査実施しない 18時間		第3定期考査実施しない 17時間		第5定期考査実施しない

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	知識・理解、思考力・判断力・表現力を定期テスト等を通して評価する。
---------------	-----------------------------------

日常の 学習方法	講義形式の授業を中心とする。可能であれば問題演習やオンライン授業を行う。
-------------	--------------------------------------

大学受験や 発展的な内容との関連	共通テストに特化した授業を行う。
---------------------	------------------

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。 文化の多様性と現代世界の特徴を広い視野から考察させる。 共通テスト及び国公立大二次・私大等4年制大学入試に対応する。 基礎力の充実をはかるとともに論述問題に対応しうる学力をつける。	教科書	詳説世界史B (山川出版社)
講座名	世界史B	科目名	世界史B			副教材	ニューステージ世界史詳覧 (浜島書店)
単位数	4単位	区 分	自由選択				ウイニングコンパス世界史の整理と演習 (とうほう)
年 次	3年次	形 態	少人数				世界史用語集(山川出版社)
担当者名	増元						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>		
授業内容	東ヨーロッパ世界の成立	東アジア世界の動向	夏季休業期間	ヨーロッパ諸国の抗争と主権国家体制の形成	石油危機と世界経済の再編	冬季休業期間	総合問題演習
	西ヨーロッパ中世世界の変容	清代の中国と隣接諸地域		重商主義と啓蒙専制主義	社会主義世界の変容とグローバルゼーションの進展		地域史・テーマ史 (個人指導)
		トルコ・イラン世界の展開		ヨーロッパ諸国の海外進出	途上国の民主化と独裁政権の動揺		
	西ヨーロッパの中世文化	ムガル帝国の交流と東南アジア交易の発展		17～18世紀ヨーロッパの文化と社会	地域紛争の激化と深刻化する貧困		
	トルコ化とイスラーム化の進展	ヨーロッパ世界の拡大		戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立	現代文明の諸特徴		
	東アジア諸地域の自立化	ルネサンス		米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興	総合問題演習		
	モンゴルの大帝国	宗教改革		第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り	第四定期考査		
第一定期考査	第二定期考査		第三定期考査				
定期考査までの授業数	16 時間	16 時間		16 時間	16 時間		時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	①基本事項 (重要事件・人物・場所・年など) をきちんと理解しているか。 ②事件の背景等を歴史の流れにそって的確に理解しているか ③様々な歴史的事実に対して自分なりにその意味・意義を考えることができるか。 ④単なる過去の出来事としてではなく、現代の国際社会の状況・出来事に結びつけてとらえることができるか。 ⑤定期考査、課題 (レポート) 等の提出物、授業態度などにより評価する。
---------------	--

日常の 学習方法	①授業中 講義中心の授業になる。教科書、資料等を参照しながら、講義を積極的に聞き、歴史事象について考察してほしいし、自主的な努力も希望する。 ②家庭学習 復習を主とし、授業時に学習した内容を整理して次の授業にのぞむようにする。 授業中に紹介した著作や新聞等の記事は読んでおくことが望ましい。 ウイニングコンパスは毎日の復習に利用すること。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	授業の内容は、大学受験の基本・基礎となるものである。共通テストでの高得点を狙い、二次試験・私大受験を希望する生徒を対象としている以上積極的な学習が必要がある。
---------------------	---

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	世界の歴史の大きな枠組みと流れを、我が国の歴史と関連付けながら理解させる。 2年次の学習を基礎に古代から近現代までの理解を深める。 共通テスト及び国公立大二次・私大等4年制大学入試に対応する。 基礎力の充実をはかるとともに論述問題に対応しうる学力をつける。	教科書	詳説世界史B (山川出版社)
講座名	世界史演習	科目名	世界史B演習			副教材	ニューステージ世界史詳覧 (浜島書店)
単位数	2単位	区 分	自由選択				ウイニングコンパス世界史の整理と演習 (とうほう)
年 次	3年次	形 態	少人数				世界史用語集(山川出版社)
担当者名	増元						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容	帝国主義と列強の展開 世界分割と列強対立 アジア諸国の改革と民族運動 第一次世界大戦とロシア革命 第一定期考査	ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 アジア・アフリカ民族主義の進展 第二定期考査	夏季休業期間	世界恐慌とファシズム諸国の侵略 第二次世界大戦 古代の世界 ヨーロッパ世界 東アジア世界	イスラームと内陸アジア 近代ヨーロッパとアメリカ 帝国主義 二つの大戦 冷戦とその後 第四定期考査	冬季休業期間
	定期考査までの授業数	8 時間	8 時間	8 時間	8 時間	時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	①基本事項（重要事件・人物・場所・年など）をきちんと理解しているか。 ②事件の背景等を歴史の流れにそって的確に理解しているか ③様々な歴史的事実に対して自分なりにその意味・意義を考慮することができるか。 ④単なる過去の出来事としてではなく、現代の国際社会の状況・出来事に結びつけてとらえることができるか。 ⑤授業内での演習
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 講義と演習を交えた授業になる。2年次(2学期は3年次)の学習内容を復習して行くことを前提として進める。 ②家庭学習 教科書とノート・プリントによる2年次の学習内容の復習は必須である。加えて小テストや問題集をこなして授業に臨む必要がある。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	共通テスト・二次試験・私大の問題を扱うので受験に直結する。
---------------------	-------------------------------

令和5年度(2023年度)授業計画				目 標	①日本史の展開を総合的に考察し、我が国の文化についての認識を深める。 ②わが国の近世から現代への歴史的展開を国際的な視野も考慮し、総合的に理解させる。 ③わが国の伝統的文化の特色について、理解と認識を深めさせる。 ④通史終了後は、テーマ史学習によりさまざまな視点から応用的な理解力を深めさせる。	教科書	詳説日本史B (山川出版社)
講座名	日本史B	科目名	日本史B			副教材	新詳日本史地図・資料・年表 (浜島書店) 改訂版詳録新日本史史料集成 (第一学習社) ウィニングコンパス日本史の整理と演習 (とうほう)
単位数	4単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	講義				

学校行事	第1学期	<第1定期考査>		<第2定期考査>		第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>		<第4定期考査>		第3学期	<第5定期考査>	
授業内容	・年間の授業について		日露戦争と国際関係		夏季休業期間		第一次世界大戦と日本		恐慌の時代		冬季休業期間		センター試験対策	
	開国と幕末の動乱		近代産業の発展		夏期講習		ワシントン体制		軍部の台頭		冬期講習		私大・国公立二次対策	
	明治維新と富国強兵		近代文化の発達			市民生活の変容と大衆文化		第二次世界大戦						
	立憲国家の成立と日清戦争							既習内容の復習と問題演習						
	第1定期考査		第2定期考査			第3定期考査		第4定期考査						

実力テスト 実技テスト 課題テスト														

評価の観点 評価方法	①基本事項(重要事件・人物・場所・年など)をきちんと理解しているか。 ②事件の背景等を歴史の流れにそって的確に理解しているか。 ③様々な歴史的事実に対して自分なりにその意味・意義を考察できるか。 ④単なる過去の出来事としてではなく、現代の国際社会の状況・出来事に結びつけてとらえることができるか。 ⑤定期考査、課題(レポート)等の提出物、授業態度などにより評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①教科書を熟読することが大切。文系学習の基本は読本(授業の場合は教科書)から。教科書がボロボロになるまで使い込むこと。 ②授業中、黒板に書かれたこと以外でも話を聞きしっかりメモをとる。手先を使い文字を書くことや、メモをとる行為は脳を刺激し君の頭を賢くしてくれる。 ③配布された資料などもよく読んで、日頃から自ら考え問題を発見するように努める。それを進歩と言う。 ④幅広い知的関心をもつためにも、様々なメディアを通じて歴史を知る。地域の歴史的文化的遺産にも触れてみることも大切である。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との 関連	センター試験をはじめ、最近の大学入試問題では、全時代・全分野を対象とする総合問題・混合問題の出題頻度が高い。②近代・現代史の出題が増加傾向にある。③史料・写真・グラフを使用した問題が比較的多く採用されている。
-------------------------	--

令和5年度(2023度)授業計画				目 標	①入試問題を利用して、多角的な日本史のとらえ方を学ぶ。 ②受講者各人の歴史観や世界観の形成を促し、人間と社会に対する洞察力を育成する。 ③歴史的事象を概観する中で、現代社会の成り立ちを理解できるようにする。 ④事件・事項の丸暗記ではなく、歴史的経過・流れを理解する。	教科書	詳説日本史B (山川出版社)
講座名	日本史B演習	科目名	日本史B演習			副教材	新詳日本史地図・資料・年表 (浜島書店) 改訂版詳録新日本史史料集成 (第一学習社) ウィニングコンパス日本史の整理と演習 (とうほう)
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	講義と演習				

学校行事	第1学期	<第1定期考査>		<第2定期考査>		第2学期	木もれ陽祭	<第3定期考査>		<第4定期考査>		第3学期	<第5定期考査>	
授業内容	・年間の授業について	55年体制		夏季休業期間		冷戦の終結と日本社会の動揺		既習内容の復習と問題演習		冬季休業期間		センター試験対策		
	占領と改革	経済復興から高度成長へ		夏期講習		既習内容の復習と問題演習		センター試験対策		冬期講習		私大・国公立二次対策		
	冷戦の開始と講話	経済大国への道												
	実践演習	実践演習												
	第1定期考査	第2定期考査				第3定期考査								

実力テスト 実技テスト 課題テスト														

評価の観点 評価方法	①基本事項(重要事件・人物・場所・年など)をきちんと理解しているか。 ②事件の背景等を歴史の流れにそって的確に理解しているか。 ③様々な歴史的事実に対して自分なりにその意味・意義を考察できるか。 ④単なる過去の出来事としてではなく、現代の国際社会の状況・出来事に結びつけてとらえることができるか。 ⑤定期考査、課題(レポート)等の提出物、授業態度などにより評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①教科書を熟読することが大切。文系学習の基本は本(授業の場合は教科書)を読むことから。教科書がボロボロになるまで使い込むこと。そのことで、東大・一橋大・早慶大でも1冊の教科書で間に合うことに気づくだろう。教科書はすごい!! ②授業中、黒板に書かれたこと以外にも、話を聞きしっかりメモをとる。手先を使い文字を書く。メモをとる行為は脳を刺激し君の頭を賢くしてくれる。 ③配布された資料などもよく読んで、日頃から自ら考え問題を発見するように努める。それを進歩と言う。 ④幅広い知的関心をもつためにも、様々なメディアを通じて歴史を知る。地域の歴史的文化遺産にも触れてみることも大切である。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との 関連	演習の内容は、大学受験の基礎基本から応用となるものである。センター試験での高得点をめざす生徒や二次試験・私大受験を希望する生徒は、3年次の選択講座を履修する必要がある。
-------------------------	--

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	現代社会の様々な課題を政治・経済・社会・文化・生活など様々な観点から理解させる。 課題解決のためにはどうあるべきか等について多角的に考える基礎力を養う。 問題意識を持って自ら調べ、様々な角度から検討し、自分の考えを持つ能力を伸ばす。 民主的な社会の構成員としての資質と能力を身につける。	教科書	新版 公共（数研出版）
講座名	公共	科目名	公共			副教材	最新図説 公共（浜島書店） スタディノート 公共（数研出版）
単位数	2単位	区 分	必修				
年 次	2年次	形 態	クラス単位				
担当者名	渡辺 竹生						

授業内容	第1学期		第2学期		第3学期
	<第1定期考査>	<第2定期考査>	<第3定期考査>	<第4定期考査>	<第5定期考査>
公共的な空間における基本原理 民主社会の基本原理 日本社会の基本原理	現代の民主政治と政治参加の意義 日本の政治機構 政治参加と民主政治の課題	現代の経済社会と経済活動の在り方 経済のしくみと市場機構 財政と金融 日本経済の発展と変化 豊かな社会と福祉の実現	国際社会の動向と日本の役割 国際政治の動向 国際政治の課題と日本の役割 国際経済の動向と国際協力	公共的な空間をつくる私たち 公共的な空間における人間としてほあり方生き方 持続可能な社会づくりの主体と私たち	
定期考査 までの 授業時数	8時間	12時間	12時間	12時間	12時間

評価	観点		方法	基準		
	知識・技能	思考・判断・表現		A	B	C
評価	①資料を適切に読み取ることができる。②必要な情報を取捨選択している。③情報を効果的にまとめている	①社会の諸事象を多面的・多角的に考察している。②公正に判断している。③合意形成や社会参画に向けて議論している。	考査、小テスト、提出物課題 課題論文	①②③のすべての観点を満たしている。	①②③の観点のうち、不十分なものがある。	①②③の観点が満たされていない。
	①社会事象に対して興味関心をもっている。②自分事にひきつけ考察している。③解決のための方策を提言することができる。		考査、小テスト、提出物課題、発表活動、課題論文	①②③のすべての観点を満たしている。	①②③の観点のうち、不十分なものがある。	①②③の観点が満たされていない。
			考査、小テスト、提出物課題、発表活動、課題論文	①②③のすべての観点を満たしている。	①②③の観点のうち、不十分なものがある。	①②③の観点が満たされていない。

日常の 学習方法	①現代日本・世界の諸問題を自分たちとの関わりから多角的に調べ、自分の意見を持つ。 ②日頃から新聞を読み、ニュースを視て、時事問題に関する知識を持つ。 ③教科書・副教材を熟読して理論的に理解し、重要用語を理解した上で覚え、問題集を解く。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との 関連	授業では大学入試問題の演習に取り組む。
-------------------------	---------------------

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせる。 現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させる。 民主主義の本質に関する理解を深めさせる。 社会の諸問題の客観的な理解と主体的に考察し、判断する力を養う。	教科書	高等学校改訂版政治・経済 第一学習社発行
講座名	政治経済	科目名	政治・経済			副教材	政治経済資料2022 とうほう発行 ウィニングコンパス 倫理・政治・けいあい とうほう発行
単位数	2単位	区 分	自由選択				
年 次	3年次	形 態	少人数				
担当者名	渡辺						

学校行事	第1学期 遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期 木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期 <第5定期考査>	
授業内容	労働問題 社会保障と社会福祉 国際政治の動向	国際政治の動向 国際社会と国際法 国際連合の役割と国際協力 核兵器の廃絶と軍縮	夏季休業期間	国際経済のしくみと現状 為替相場のしくみ	国際協調と国際経済機関の役割 国際経済の諸問題と日本の役割 南北問題と国際協力 日本経済のあゆみ	冬季休業期間
	定期考査までの授業数	8 時間		8 時間	8 時間	時間

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	①基本的事項の理解度 ②主体的に授業に参加し、自分の考えを持つよう努力したか。 (1)定期考査 (2)新聞課題 (3)小テスト 定期考査、小テスト、レポート等提出物、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 スライドを使って授業をおこなうので、論理的に理解できるかを確認しながら集中して聞くようにする。主体的に学習し、積極的に質問する姿勢を持つことがきわめて大切である。 ②家庭学習 予習では教科書・資料集をよく読み、大まかな理解をしておく。復習では授業中に示された内容を確実に身につけ、資料集を熟読する。毎日、新聞の政治・経済面をできる限り読む。
-------------	--

大学受験や 発展的な内容との関連	共通テストでは、公民科の1科目として選択受験できる。政治学部・経済学部・法学部・商学部等の学部の国公立2次試験や私大個別試験では選択で試験科目にしている。
---------------------	---

令和5年度(2023年度)年間授業計画				目 標	人間尊重の精神に基づいて、青年期における自己形成と人間としての在り方生き方について理解させる。 人格の形成に努める実践的意欲を高め、生きる主体としての自己の確立を促す。 良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。	教科書	東京書籍	倫理
講座名	選択倫理	科目名	倫理			副教材	とうほう アプローチ倫理資料集 PLUS 2023 実教出版 ベストセクション倫理重要問題集	
単位数	2単位	区 分	自由選択					
年 次	3年次	形 態	講義					
担当者名	竹生 深雪							

学校行事	第1学期	遠足 <第1定期考査>	<第2定期考査>	第2学期	木もれ陽祭 <第3定期考査>	<第4定期考査>	第3学期	<第5定期考査>
授業内容			夏季休業期間				冬季休業期間	
	ギリシア哲学	仏教	青年期	日本の近代化と西洋思想	近代の理性的人間像		センター及び二次対策	
	古代中国の思想	古代日本人の思想	生命倫理	ルネサンスと宗教改革	資本主義と社会主義			
	ユダヤ教	日本仏教	環境倫理	自然と科学技術	功利主義とプラグマティズム			
	キリスト教	日本儒教	情報社会	民主社会の成立	実存主義			
イスラム教		国際平和と人類の福祉		ヒューマニズム				新しい知性と現代の思想
定期考査までの授業数	10		11	13		11	2	

実カテスト 実技テスト 課題テスト				

評価の観点 評価方法	社会と人間に関わる事項に関心を持ち、正しい理解と知識を持って、広い視野から深く考察できているか否かを評価する。 定期考査、授業態度等により評価する。
---------------	---

日常の 学習方法	①授業中 他の授業と特に変わるものはない。普通に取り組めばよい。授業内容を自らの課題として考えるようにするとより豊かな授業になる可能性がある。 ②家庭学習 授業前に必ず教科書を読み予習しておくこと（理解度が深まる）。
-------------	---

大学受験や 発展的な内容との関連	「倫理」は共通テストの一教科として存在しているが本来は点数化する試験にはなかなかなじまないもの。但し、理解すべき項目は少ないため用い方次第では高得点につながることもある。
---------------------	---